

令和3年度

茨木市立彩都西小学校いじめ防止基本方針

(いじめの定義)

『いじめ』とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」〈いじめ防止対策推進法〉

(学校教育目標)

自信をもちと友だちとともに伸びる子の育成
(校訓) かしこく やさしく たくましく

1 いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針

(基本理念)

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。本基本方針は、「いじめ防止対策推進法」第13条の規定に基づいて、これまで本校が示してきた教育に係る指導等をあらためて確認・徹底し、児童が、安心して生活できるよう学校の中でも外でもみんなで協力し合っていじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定するものである。

(いじめの禁止)

いじめを行ってはならない。

(学校及び教職員の責務)

いじめが行われず、すべての児童・生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、保護者や地域、吹田子ども家庭センターや所轄警察署等をはじめとする関係外部機関との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合は、適切かつ迅速にこれに対処し、事象の教訓化と再発防止に努める。

2 いじめの防止等のための基本となる事項

(1) 基本施策

①学校におけるいじめの防止

児童等の豊かな情操と人権感覚及び道徳心を培い、心の通う対人交流の能力素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、本校は、全ての教育活動を通していじめ防止

につながるような心を豊かにする教育、人権教育・道徳教育、人間関係能力が高まるような内容の充実を図る。

本校は、保護者・地域の方々、その他の関係者と協力していじめ対策を進めることにより、いじめ防止教育を理解してもらうよう推進する。

- ア 命を大切にし、違いを認め合い、他人を思いやる心の育成
 - ・絆づくり、居場所作り、集団作りの取組み推進
- イ 聞きあう関係を大切にした相互理解のあるコミュニケーション力の育成
 - ・わかる授業づくりの推進により、自己有用感や自己肯定感を育む
 - ・障がいのある児童等への理解を深め、すべての児童等にとって安心・安全な学校作りの推進
 - ・規範意識の醸成
 - ・児童会活動、体験活動の充実
- ウ 人、自然、地球と共に生きる豊かな心の育成

② いじめの早期発見のための措置

- ア いじめ調査等
 - ・児童対象 心の健康アンケート 年3回（6月、11月、2月）
 - ・教育相談（随時）
- イ いじめ相談体制
 - ・相談体制の整備 【窓口：いじめ不登校対策委員会】
 - ・スクールカウンセラーや関係機関と連携
- ウ インターネットを通じて行われるいじめに対する対策
 - ・児童への情報モラル教育
 - ・犯罪被害防止教室の実施
 - ・保護者への啓発

(2) いじめ防止等に関する措置

①いじめ防止等の対策のための組織「いじめ不登校対策委員会」を設置

<構成員> チーフ 生徒指導主事（生活指導担当）

校長、教頭、首席、教育相談担当 支援教育コーディネーター

学年1名、養護教諭

<活動>

- ・いじめ防止に関すること
- ・いじめ防止のための教育活動推進
- ・いじめの早期発見に関すること・心の健康アンケート調査
- ・いじめ事案への対応に関すること
- ・いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童理解を深めること

<開催>

- ・月1回定例会とし、いじめ事案発生時は緊急開催とする。

<緊急開催メンバー> チーフ 校長

教頭、首席、生徒指導主事（生活指導担当）、関係学年教員

関係教職員、支援教育コーディネーター、養護教諭、

（必要に応じ）スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー 各学年 1名

②いじめに対する措置

- ア いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無の確認を行う。
- イ いじめの事実が確認された場合は、ケース会議を開き、いじめをやめさせ、いじめを受けた子を守る。受けた児童生徒・保護者に対する支援と、いじめを行った児童生徒への指導・支援とその保護者への助言を継続的に行う。障がいを持った児童のみならずすべての児童が、安心できるように特段の配慮をもって対処する。
- ウ 速やかに市教育委員会に報告し、「いじめ対応報告書」を提出する。
- エ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、教育委員会及び所轄警察署等と連携して対処する。

③重大事案への対処

いじめによってとても大きな被害が（生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるなど）が、起きた場合は、事実関係をはっきりさせるための調査を実施する。

- ア 重大事態が発生した旨を、市教育委員会に速やかに報告する。
- イ 教育委員会と協議の上、当該事案に対処する組織を設置する。
- ウ 上記組織を中心として、事実関係を明確にするため、市教育委員会の学校応援サポートチームと連携し、適切な調査を実施する。
- エ 上記調査結果については、市教育委員会と協議の上、いじめを受けた児童・保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

④学校教育自己診断における留意事項

いじめを隠蔽せずいじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校教育自己診断の項目に加え、適正に自校の取組を評価する。

- ア いじめの早期発見に関する取組に関すること。
- イ いじめの再発防止の取組に関すること。

(別添)

資料1 いじめ防止等に関する年間計画

資料1

茨木市立彩都西小学校

令和3年度 いじめの防止等に関する年間計画				
	学校	児童生徒	保護者	地域・その他
4月	校内研修			
5月	1年 みんななかよし 6年 平和学習	あいさつをしよう	個人懇談	
6月	ふわふわ言葉 ちくちく言葉	心の健康アンケート①		日曜参観(オープンスクール) 教育相談担当者会
7月	二者懇談			学校協議会
8月	校内研修			
9月				教育相談担当者会
10月	3年 身を守るワーク	挨拶をしよう		
11月	2年 わたしだいすきみんなだいすき 4年 身を守るワーク 1~6年 ・言葉づかいに気をつけよう ・いじめ防止キャンペーン ・道徳「友情・信頼」「生命の尊さ」など人との関りや命の学習を行う。	いじめ防止週間(児童会)		教育相談担当者会 学校協議会
12月	二者懇談			いじめ不登校シンポジウム
1月				教育相談担当者会
2月		心の健康アンケート③		学校協議会
3月	検証・総括			学校協議会

いじめ不登校対策委員会(定例)